



# 宝グループ 環境活動 REPORT

- 
1. 環境方針と取り組み

---

  2. 活動内容

---

  3. 環境データ

---

  4. 宝の環境活動のあゆみ(環境活動年表)

---

# 1. 環境方針と取り組み

## 宝グループ環境方針

宝グループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

1. 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
2. 宝グループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
  - (1) 環境汚染の予防に努めます。
  - (2) 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
  - (3) 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
  - (4) 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
  - (5) 容器包装の3Rへの対応など、環境に配慮した商品開発に努めます。
3. 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
4. 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

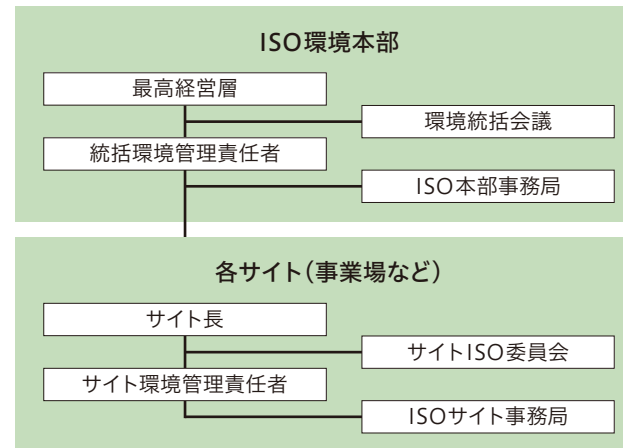
## 宝グループ環境マネジメントシステム

### ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、全支社、本社、および宝ホールディングス、宝酒造インターナショナルの本社、トータルマネジメントビジネスの本社で、ISO14001の認証を取得しています。

ISO環境本部を中心に、経営と直結した目標に向かって活動しています。

#### ● 宝グループ環境マネジメント体制



## 環境関連法規の遵守状況

### 定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2017年度は環境関連法規に関する違反事項はありませんでした。

#### 主要な環境関連法規

- 公害関係法規(水質汚濁防止法など)
- 廃棄物処理関係法規(廃棄物処理法など)
- 化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法など)
- リサイクル関連法規(容器包装リサイクル法など)
- 省資源関連法規(省エネ法など)
- 防災・危険物関係法規(消防法など) など

# 1. 環境方針と取り組み

## 宝酒造の環境活動

宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恩恵を受けて酒類や調味料、酒精といった幅広い事業を行っています。このため、豊かな自然環境が保たれることは、当社が存続する上での大前提となります。一方、商品は、ガラスびんやPETボトル、紙パック、アルミ缶などの容器に詰めて販売します。商品が消費された後に発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。以上の理由から、当社とのかかわりが深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けてきました。

「自然保護」では、1979年にスタートしたカムバック・サーモンキャンペーンをはじめ、1985年に設立した公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」、2004年開校の宝酒造「田んぼの学校」など、30年以上にわたりさまざまな活動に取り組んでいます。

「空容器問題」では、容器の3R (Reduce・Reuse・Recycle) を考慮した商品開発を進めるとともに、当社独自の取り組みとして、新たな容器を必要としない焼酎のはかり売り (Refuse) を加えた4Rの取り組みを推進しています。また、2012年より環境教育プログラム宝酒造「エコの学校」を開校しています。

## 宝酒造は自然と社会と人間との調和を大切にしています

自然の恵みを得て  
商品をつくります

自然を考える



### 自然保護への取り組み

自然保護活動

- タカラ・ハーモニストファンド  
自然環境保全の活動や研究を支援

教育

- 宝酒造「田んぼの学校」  
自然の恵みと命のつながりを学ぶ

いろいろな容器に入れて  
販売します

空容器を考える



### 空容器問題への取り組み

教育

- 宝酒造「エコの学校」  
ごみを減らす方法を学ぶ

環境負荷削減活動

- 4R (3R+R) の推進  
超軽量びんやはずせるキャップの採用、  
焼酎のはかり売りの推進 など

## 2. 活動内容



### 目次

自然を考える ● 宝ホールディングス 「 <b>タカラ・ハーモニストファンド</b> 」 自然環境保全や生物多様性保全のための活動や研究に取り組む団体や個人を全国から公募し、広く支援し続けています。 .....	4
--	---

自然を考える ● 宝酒造 「 <b>田んぼの学校</b> 」 次世代を担う子どもたちに、自然環境や生物多様性を守ることの大切さを伝えます。 .....	5-6
--	-----

空容器を考える ● 宝酒造 「 <b>エコの学校</b> 」 次世代を担う子どもたちに、ごみ問題の現状やごみを減らす方法について伝えます。 .....	7
--	---

空容器問題を考える ● 宝酒造 「 <b>4R(3R+R)の取り組み</b> 」 リデュース、リユース、リサイクルの3Rにリフューズを加えた4Rに取り組んでいます。 .....	8
---	---

## 自然を考える ● 宝ホールディングス 「タカラ・ハーモニストファンド」

### 公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」

宝ホールディングスは、1985年の創立60周年を機に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は、自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われます。2018年度は、多数の応募の中から、「姫路ジャコウアゲハ倶楽部」など、全国で団体、個人あわせて11件の自然環境保全に関する活動・研究が助成先として選ばれました。第1回からの助成先件数は延べ355件、助成金累計額は1億6986万8千円となりました。

#### ● 2018年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

	助成先団体・個人	地域	テーマ
活動の部	やまがたヤマネ研究会	山形県	山形の自然はみんなで調べて守ろう！ モモンガレスキューレンジャーとの保全調査活動
	NPO法人宮代水と緑のネットワーク	埼玉県	里山の自然観察と体験
	芦生生物相保全プロジェクト	京都府	生育地外保全による京都府芦生地域の希少植物保護
	大阪府立枚方高等学校生物飼育部	大阪府	守りたい、大阪のカシミサンショウウオ！
	姫路ジャコウアゲハ倶楽部	兵庫県	姫路市蝶ジャコウアゲハプロジェクト
	大野岳タイワンツバメシジミ保存会	佐賀県	絶滅危惧ⅠBのチョウ「タイワンツバメシジミ」の保存活動
	西表在来植物の植栽で地域振興を進める会	沖縄県	西表島海岸での外来植物駆除、在来植物植栽による原風景回復
研究の部	福井 翔	北海道	目には見えない、絶滅危惧種オシロコマを襲う外来カワマスによる遺伝子汚染
	柳井 清治	石川県	金沢市犀川河口の伐採を受ける水辺林に生息する陸ガニ類の保全
	岐阜県立不破高等学校自然科学部	岐阜県	南宮山に生息するニホンジカの個体識別およびRESTモデルによる密度推定
	鈴木 紀之	高知県	海岸クロマツ林の多面的機能：希少な昆虫の生息地として

### 助成先の活動紹介



#### 「市の蝶であるジャコウアゲハをきっかけにして自然に興味を持ってもらいたい」

「姫路ジャコウアゲハ倶楽部」は、姫路市の蝶、ジャコウアゲハを知ってもらうための活動を約8年前から続けています。この数年は、自然を見つめる生物多様性の授業の一環として姫路市内の小学校にジャコウアゲハの幼虫の食草（ウマノスズクサ）にタマゴを付けた飼育セットを配布。2018年は、市内69校中49校123クラスの児童に、幼虫から成虫になるまでを観察してもらいました。この他、ジャコウアゲハで街づくりを考える「ジャ



コウアゲハサミット」や写真コンテスト、親子スケッチ大会なども開催。いつかジャコウアゲハで自然を学ぶことが姫路市の文化になれば、と考えています。

姫路ジャコウアゲハ倶楽部

## 自然を考える・宝酒造 「田んぼの学校」

宝酒造は、次世代を担う子どもたちに自然環境や生物多様性を守ることの大切さや自然の恵みのありがたさを伝えることを目的として、2004年より宝酒造「田んぼの学校」を開校しています。小学生とご家族を対象に、5月から12月までの約半年間に京都府南丹市園部町の田んぼと京都市内のクッキングスクールにて、稲作体験や自然観察、料理教室などの授業を4回にわたって行います。

なお、宝酒造「田んぼの学校」は、地元農家や環境NPO法人など多くの方々の協力を得て運営しています。

春

### 田植え編

田植え体験では、20cmほどに育ったもち米の苗をみんなで植えます。自然観察の授業では、「はじめよう自然観察 五感を使って」をテーマに2～3家族ずつの班に分かれて、自然観察講師と一緒に田んぼの周辺の生き物を観察しました。

田植え体験



苗を手に田植えスタート

自然観察



自然観察講師の話に興味津々

夏

### 草取り編

草取り体験では、生育の妨げとなる草を抜いたり田んぼの土の中に埋めたりして、稲が育ちやすい環境をつくります。自然観察の授業では、「生きるための知恵と工夫」をテーマに、トゲや臭いで危険から身を守る植物など、たくさんの生き物を観察しました。

草取り体験



根が張った草を手で抜くのは一苦労



草取りマシーン「田打ち車」を体験

自然観察



昆虫をつかまえてみんなで観察

## 秋 収穫編

稲刈り体験では、1mを超える大きさに育った稲を鎌で刈り取ります。また、千歯こぎやこきばしによる脱穀も体験しました。自然観察の授業では、「命のつながり」をテーマに、いろいろな方法で子孫を残す生き物の知恵を学びました。

### 稲刈り体験



初めての稲刈りは難しい

### 脱穀体験



昔の脱穀を体験。力が必要だ

### 自然観察



捕まえたトンボをよ〜く観察!

## 翌春 特製 本みりん

収穫したもち米を使って、当社の工場の特製の本みりんをつくります。子どもたちが手づくりしたオリジナルラベルを貼って、参加者のもとにお届けします。



## 冬 恵み編

料理教室では、収穫したもち米や本みりんなどを使って親子で料理をつくります。大人を対象とした「みりんの楽校<sup>がっこう</sup>」では、本みりんや料理清酒についての知識を深めます。その間、子どもたちは、田んぼの学校特製本みりん<sup>しめがさ</sup>に貼るラベルを作りました。最後に、田んぼで収穫した稲わらを使って、お正月にかかせない「注連飾りづくり」を体験しました。

### 料理教室



親子で楽しく料理づくり



自分で作ったお料理は格別だね

### 注連飾りづくり



注連飾りづくりに挑戦

## 空容器を考える ● 宝酒造 「エコの学校」

宝酒造「エコの学校」は、小学3～6年生とご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から毎年開催しています。2018年度は京都市・神戸市・東京都江東区・名古屋市の4都市の環境学習施設で各2回ずつ開催しました。

プログラムでは、自分たちが住む街のごみ問題の現状やごみを減らす方法について、リサイクル体験などを交えながら楽しく学びます。

### 1 時 限 目



1 時 限 目 は、自分たちが住む街のごみの現状について学びます。

ごみの種類や量はどうか変化してきたのか、ごみの処理にどれくらい税金が使われているのか、ごみの分別はどうしたらいいのかなど、環境学習施設を見学しながら講師の説明を受けます。

### 2 時 限 目



2 時 限 目 は、ごみを減らす方法について学びます。

エコバッグやマイボトル、マイ箸の利用、詰め替え品や簡易包装品の購入など、生活の中で誰でも簡単にできるごみを減らす方法を学びます。

### 3 時 限 目



3 時 限 目 は、ガラスびんからできるカレット（粒状のガラス）を使ったリサイクル体験です。

色とりどりのガラス粒を並べて貼り付け、オリジナルのガラス絵を作ります。



## 空容器問題を考える ● 宝酒造 「4R(3R+R)の取り組み」

### 空容器問題への取り組み

#### 空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割(容積比)は、容器包装が占めています。

宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース(Reduce: 減量化)、リユース(Reuse: 再利用)、リサイクル(Recycle: 再資源化)の3Rにリフューズ(Refuse: 発生回避)を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



#### 焼酎のはかり売りの展開

宝酒造独自の活動として、焼酎のはかり売りを展開しています。焼酎のはかり売りでは、当社の工場で1ℓや200ℓの専用タンクに焼酎を充填し販売店に直送します。お客様は家庭にあるPETボトルなどの空容器を販売店に持参し、専用タンクから必要な分だけ容器に詰めて購入します。

「はかり売り」は、資源の節約や廃棄物の削減を実現するために人手を使う販売手法であり、消費者、販売店、メーカーの信頼関係をベースにお互いが協働することで成り立っています。

現在は全国で約140店舗にご協力いただき、1998年の開始以来2018年3月までに、2.7ℓPETボトル換算で約900万本、段ボール約220万枚を節約することができました。

#### 環境配慮型商品の開発

宝酒造では、「環境に配慮した商品開発のための指針」や「環境配慮型商品開発に関する手順書」を作成し、資材調達や商品開発においてISO14001の環境目標を設けて、容器の3R(リデュース、リユース、リサイクル)に配慮した商品開発を継続的に進めています。

昔から続く「一升びん」のリユースをはじめ、超軽量びんやEP-PAKオルカットなどの新資材の採用、パウチパック製品によるリデュースなど、様々な取り組みを行っています。

### AWARD

#### 「エコマークアワード2018」で「最優秀賞」を受賞



宝酒造株式会社の環境活動が、公益財団法人日本環境協会が主催する「エコマークアワード2018」において最高賞である「最優秀賞」に選定されました。

「エコマークアワード2018」は、日本環境協会が2010年に創設した表彰制度で、企業・公共・民間の各部門において、エコマーク事業の目的である「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体を表彰するものです。選考委員会の選考基準に基づく慎重な審査・選考の結果、「優秀賞」が選定され、その中から最も優れた取り組みに「最優秀賞」が授与されます。

今回の受賞はエコマーク認定の超軽量びんの導入をはじめ、アルミ缶やガラスびん、ペットボトルなど、あらゆる容器の軽量化を追求し、容器包装の3R(リデュース・リユース・リサイクル)に、宝酒造独自の4つ目のR(リフューズ: 発生回避)を加えた4Rという容器包装を中心とした、ごみ問題への継続的な取り組みや、地域の小学生を対象とした環境教育などの活動が、総合的に評価されたものです。

## 3. 環境データ

### 温室効果ガス排出の抑制

地球温暖化に起因する気候変動は、全世界が一致協力して取り組むべき重要な社会課題です。また、当社グループの事業継続にとってリスクとなる可能性もあるため、事業に伴う温室効果ガス排出の抑制に取り組んでいます。

#### 生産でのCO<sub>2</sub>削減

宝グループの2018年3月期の生産工程におけるCO<sub>2</sub>の総排出量は、108.93千t-CO<sub>2</sub>となりました。一方、宝グループのCO<sub>2</sub>排出量の8割以上を占める宝酒造の生産工程でのCO<sub>2</sub>排出量は、2017年3月期までは順調に減少していましたが、2018年3月期は前期比で3.5%増加しました。

高効率ガスボイラーや省エネエアコンへの更新、照明のLED化などの省エネ設備の導入や、省エネ診断を活用した蒸気配管の保温対策の実施、原料アルコールの品質に対応した蒸留条件の最適化などに取り組みましたが、製造数量増加によるCO<sub>2</sub>排出量増加をカバーできませんでした。

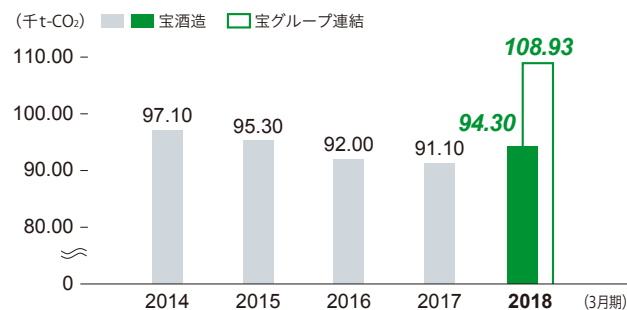


マイクロガスタービン  
コージェネレーションシステム

#### 〈生産工程でのCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み事例〉

- 重油ボイラーからガスボイラーへの転換および高効率ボイラーへの更新
- 蒸気や高温排水の排熱の再利用
- コージェネレーション(熱電供給)システムの導入

#### 生産工程でのCO<sub>2</sub>排出量(総排出量)



〈集計範囲〉

宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd.、タカラバイオ、瑞穂農林、きのこセンター金武、宝生物工程(大連)有限公司

#### 物流でのCO<sub>2</sub>削減

宝酒造では、物流の効率化や省エネ運転、モーダルシフト※の推進などにより、輸送時のCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

2018年3月期の物流工程におけるCO<sub>2</sub>排出量は、前期比で1.3%減少しました。その主な理由は、アルコール輸送タンカーの燃料品質を変更することで燃費が向上したことによるものです。



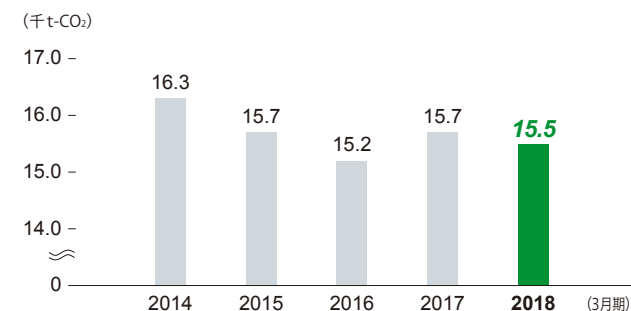
専用タンカーでのアルコール輸送

※トラックから環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと貨物輸送を転換すること。

#### 〈物流工程でのCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み事例〉

- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
- 消費地生産による東西間の転送の削減
- 物流子会社による高積載トラックの開発

#### 宝酒造の物流工程のCO<sub>2</sub>排出量(総排出量)



## 水使用の抑制

宝グループにとって水は、酒類・調味料の原料としてはもちろん、製造設備や容器の洗浄、商品の冷却にも使用するなど不可欠な資源です。水資源の持続的な利用は当社グループの事業継続において重要なテーマであり、各製造拠点を中心に、水の再利用や節水に努め、用水使用量の削減に取り組んでいます。

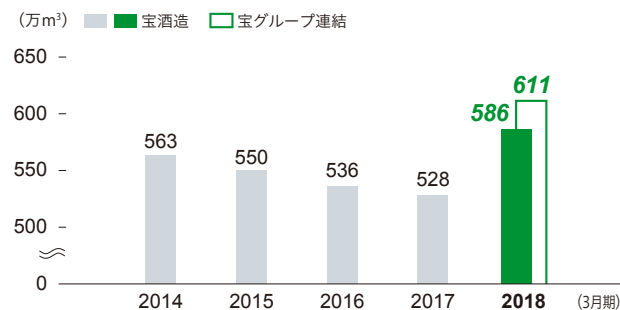
### 生産工程での用水使用量の削減

宝グループの2018年3月期の生産工程における用水使用量は、611万m<sup>3</sup>となりました。一方、宝グループの用水使用量の9割以上を占める宝酒造の用水使用量は、2017年3月期までは順調に減少していましたが、2018年3月期は前期比11.0%増加しました。増加の主な要因は、製造数量の増加によるものです。

#### 〈生産工程での用水使用量削減の取り組み事例〉

- 製造設備の洗浄方法の改善による洗浄水の削減
- 商品製造時の容器洗浄水や冷却水の再利用
- アルコール蒸留方法の改善による冷却水の削減

### 生産工程での用水使用量



〈集計範囲〉

宝酒造、Takara Sake USA Inc.、宝酒造食品有限公司、The Tomatin Distillery Co. Ltd.、タカラバイオ、瑞穂農林、きのごセンター金武、宝生物工程(大連)有限公司

## 廃棄物排出の抑制

近年、食品廃棄の問題をはじめとして、資源節約・循環の重要性が叫ばれています。宝グループでは、持続可能な循環型社会の形成・維持を重要な課題の一つと認識し、事業活動で生じる廃棄物の削減に努めるとともに、空容器の問題についても独自の取り組みを進めています。

### 工場廃棄物の削減

宝酒造の2018年3月期の廃棄物排出量は、前期比で31.2%増加しました。工場では焼酎粕などの副産物や排水処理汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。そのため、焼酎粕などの食品系副産物を飼料化・肥料化するな

ど有効利用を図り、工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。2018年3月期に廃棄物排出量が増加した主な理由は、製造数量の増加に伴い、設備能力の関係から焼酎粕のうち焼却減容化にまわるものが増加したり、排水処理汚泥などが増加したためです。

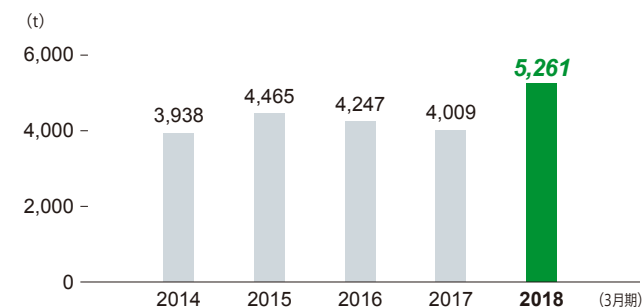
#### 〈廃棄物削減の取り組み事例〉

- 焼酎粕飼料化設備の導入
- 排水処理汚泥の減容化



焼酎粕の飼料化設備

### 宝酒造の廃棄物排出量



# 4. 宝の環境活動のあゆみ

<p><b>1925</b> 1925(大正14年) 寶酒造株式会社創立</p>	<p><b>1980</b> 1979(昭和54年) 「カムバック・サーモン・キャンペーン」開始</p> <p>1984(昭和59年) 「はたちまでストップ」企業広告を実施</p> <p>1985(昭和60年) 公益信託タカラ・ハーモニストファン드를設立</p> <p>1985(昭和60年) 「sayNo」キャンペーン実施</p> <p>1985(昭和60年) 適正飲酒啓発パンフレット「sayNo読本」を発行</p> <p>1989(平成元年) 北海道で宝焼酎「純」純レジェンドのリターナブルボトル化開始</p>	<p><b>1990</b> 1991(平成3年) 第1回「宝フリンカンウォーキング」を開催</p> <p>1994(平成6年) 「純」純レジェンドのリターナブルボトル化開始</p> <p>1994(平成6年) 四万十川の清流を守るうさぎキャンペーン開始</p> <p>1995(平成7年) 阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣</p> <p>1995(平成7年) 未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始</p> <p>1995(平成7年) 商品に点字で「おさげ」表示を開始</p> <p>1998(平成10年) 焼酎のかり売り開始</p> <p>1999(平成11年) 環境報告書「緑字決算報告書」初刊発行</p>	<p><b>2000</b> 2000(平成12年) 地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞</p> <p>2002(平成14年) ベロタクシーへの協賛開始</p> <p>2003(平成15年) 阿武隈川きらきらキャンペーンに協賛</p> <p>2004(平成16年) 環境教育教材「リサイクルロード」発刊</p> <p>2004(平成16年) 宝酒造「田んぼの学校」開始</p> <p>2004(平成16年) 妊産婦飲酒の注意表示実施</p> <p>2004(平成16年) 17事業場でISO14001を統合</p> <p>2005(平成17年) CSR報告書「緑字企業報告書」初刊発行</p> <p>2006(平成18年) お客様相談室のウェブサイト開設</p> <p>2008(平成20年) 「宝酒造林囲碁クラス別チャンピオン戦」開催</p> <p>2009(平成21年) 「お酒おつきあい読本」発行</p>	<p><b>2010</b> 2011(平成23年) 東日本大震災で被災地給水を支援</p> <p>2011(平成23年) 宝酒造「田んぼの学校」が企業フィナンソロピー大賞特別賞を受賞</p> <p>2012(平成24年) 宝酒造「エコの学校」開始</p> <p>2014(平成26年) 白河工場跡地を白河市へ寄付</p> <p>2014(平成26年) 宝酒造「田んぼの学校」が「青少年の体験活動推進企業表彰」で審査委員会特別賞を受賞</p> <p>2014(平成26年) 「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」で最高賞「内閣総理大臣賞」を受賞</p> <p>2016(平成28年) 松竹梅「京のあまくち」に日本で初めて使用後の解体が容易な新紙パック容器「EPPACKオルカット」を採用</p> <p>2017(平成29年) 松竹梅「京のあまくち」紙パックが「2017JPC(ジャパンパッケージングコンペティション)」を受賞</p> <p>2017(平成29年) 松竹梅「京のあまくち」紙パックが「2017JPC(ジャパンパッケージングコンペティション)」を受賞</p> <p>2018(平成30年) 「エコマーファワード2018」で宝酒造が「最優秀賞」を受賞</p>
--	--	--	--	---













●お問い合わせ先

**宝ホールディングス株式会社**

環境広報部 〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入  
TEL: 075-241-5186 FAX: 075-241-5126